

令和 7 年第 4 回東員町教育委員会会議録

東員町教育委員会

- 1 開 会 令和 7 年 4 月 2 2 日（火） 午前 9 時 3 0 分
- 2 閉 会 令和 7 年 4 月 2 2 日（火） 午前 1 0 時 3 0 分
- 3 場 所 東員町総合文化センター 第 1 研修室
- 4 出 席 者

教育長	日置 幸嗣
委員（職務代理者）	向山 節雄
委員	木村 陽一
委員	松宮 あけみ
委員	川瀬 理絵
＜事 務 局＞	
事務局長	中村 幹人
教育総務課長	末永 泰介
学校教育課長	三林 大高
社会教育課長	丸山 太
学校教育課主査	目黒 真平
教育総務課課長補佐	種村 大輔
- 5 会 議 事 項 別紙のとおり
- 6 出 席 委 員
.....
.....
.....
.....
- 7 会議録調製者 教育総務課課長補佐

(別紙) 会議事項

1 開会の辞

(事務局長)

ただ今から、令和7年第4回東員町教育委員会を開会いたします。
それでは、教育長に進行をお願いいたします。

2 前回会議録の確認

(教育長)

それでは、しばらく時間をとりますので、前回会議録の確認をお願いいたします。

＜前回会議録の確認＞

何か質問はございますか。無ければ会議終了後に署名をしていただきます。

3 事務報告、事務計画

(教育長)

事務報告、事務計画について説明します。

＜以下、事務報告、事務計画資料により説明＞

何か質問はございますか。無ければ議事に移ります。

4 議事

報告第5号 令和6年度中学校卒業生進路状況報告について

(教育長)

報告第5号 令和6年度中学校卒業生進路状況報告について、事務局の説明を求めます。

(学校教育課主査)

報告第5号 令和6年度中学校卒業生進路状況報告について、ご説明いたします。

＜以下、報告第5号資料により説明＞

(教育長)

ご質問はございますか。

無いようですので、次に進めさせていただきます。

報告第6号 令和7年度教育委員会事業概要について

(教育長)

報告第6号 令和7年度教育委員会事業概要について、事務局の説明を求めます。

(教育総務課長)

報告第6号、令和7年度教育委員会事業概要について、教育総務課の事業概要を説明します。

＜以下、報告第6号資料により説明＞

(学校教育課長)

続きまして、学校教育課の事業概要を説明します。

＜以下、報告第6号資料により説明＞

(社会教育課長)

続きまして、社会教育課の事業概要を説明します。

＜以下、報告第6号資料により説明＞

(教育長)

只今の説明について、ご質問はございますか。

(委員)

16年一貫教育プランを通じて息子たちを育ててきた経験から、その素晴らしさを実感しています。ただ、初めてこのプランに触れる保護者の方々には、もっと分かりやすく伝わるといいなと思います。

入園式や入学式で園長先生が説明してくれるのですが、情報がどれだけ伝わっているか気になります。特に、小さなお子さんを抱えた保護者の方々が、忙しい子育ての中でこのプランの価値を感じ取れるように、多様な方法で情報を届けていけたらと思います。

これからも、16年一貫教育の魅力をたくさんの方に知ってもらって、もっと取り組みが浸透していけばと感じました。

(学校教育課長)

保護者の方も教育ポイントを意識して子育てに携わっていただいていると思いますが、園に入られたばかりの方については、教育という観点に携わるのが難しいかもしれません。今後も引き続き、園や学校と

協力して、16年一貫教育プランのポイントを意識した子育てについて周知を進めていきたいと思います。

また、携帯やゲームとの関わりについても、お母さんがスマホを見せて時間を作る子育てをしているという現状があります。それが子どもの体にどのような影響を与えるのかという点も踏まえながら進めていきたいと思っています。

引き続きよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

（教育長）

子育てにおいては、各発達段階に応じた課題を保護者と共有し、何が重要なのかを理解していただくことが重要です。特に乳児期には、基本的信頼感や愛情を注ぐことが基本となります。保護者の方が安心して子育てに取り組めるよう、支援を行うことが大切です。

昨年度の課題として、トイレトレーニングや自立性に関する問題が挙げられましたが、園長先生が積極的に対応してくださったことで、保護者の方々も前向きに取り組む姿勢が見られました。

保育園や幼稚園は子育ての初期の重要なステップであり、そこでの取り組みが小学校や中学校へと繋がっていきます。各発達段階を意識し、全員が学びながら取り組むことが求められます。

さらに、園に来られない保護者や未就園児の家庭に対しても、16年一貫教育の重要性を伝える機会を設けることが必要です。例えば、マタニティ教室で学校教育の内容を説明するなど、伝わりきれていない部分を補う取り組みが求められます。

それぞれの段階で課題を確認し、解決に向けた具体的な取り組みが進むようにしていきたいと考えています。

（委員）

学校教育課として、教職員の方々が働き方改革や人材確保の影響で非常に忙しい状況にあることを感じています。限られた時間内での業務遂行となりますが、学びの積み上げプロセスと違い、質と量がせめぎ合っていると感じています。先生方の小さな努力が大きな成果に繋がるような職務の遂行ができればと感じたところです。

（学校教育課長）

これは東員町だけでなく、県教育委員会とも連携して、教職員の立場を確保しつつ、優秀な人材の定着を図ることが重要です。保育園でも

同様の取り組みが必要ですので、町だけでなく、学校や県、さらには国に向けて発信を続けていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

(教育長)

働き方改革を進める上で、教職員の健康を守ることが一番大切だと思います。健康を損なうような働き方は避けたいですし、教員の仕事はブラックという悪いイメージだけでなく、良いイメージを発信できれば、もっと多くの人が教職員として働くことに興味を持ってくれるのではないかと思います。

また、教職員の離職が進んでいることへの対応も大切な課題です。環境整備が進む中で、形だけが先行していないか気になっています。時間外労働の削減は喜ばしいことですが、教師としての生きがいや熱意、使命感、責任感を維持しながら、子どもたちへの教育の質を確保する必要があります。

世代によって異なる考え方もあり、権利を行使することは重要ですが、義務も果たせているかを自問自答する必要があります。最終的に子どもたちに成果が出なければ、働き方改革の意味を考え直す必要があります。

成功している部分と課題が明らかになってきている中で、時間外労働を減らしつつ、教育の質が下がるような働き方改革だけにはならないようにと思います。

(委員)

とういん英語検定についてお伺いしたいのですが、中学校での英語学習が急に始まって英語嫌いにならないよう、小学校3年生から段階的に英語を取り入れる取り組みは素晴らしいと思います。「合格率85%以上」という目標について教えていただけると助かります。

また、社会教育課が実施する放課後子ども教室についての詳細を教えてくださいませんか。

(学校教育課長)

今、手元に最新の詳しい数値はございませんが、これまでの記録を見ますと、最も良かった時の数値が70%台後半でしたので、すぐ先の80%ではなく、もう一歩先を見据えて85%という目標にしております。

(学校教育課主査)

楽しく学ぶことが一番です。嫌いになってしまったら、学ぶこと自体が嫌になってしまいます。幸い、素晴らしい英語の先生方が、みんなとワイワイ楽しく学ぶ光景をたくさん見せてくれました。

もちろん、テキストも大事ですが、それにこだわりすぎたり、その点数ばかりに目が行くと、子どもたちの学びが窮屈になります。テキストも教材の一つとして使いますが、まずは子どもたちが英語を好きになることを最優先にしていきたいと思います。

(委員)

子どもたちは漢字をたくさん覚えることができるのに、英語の授業になると先生方が特に優しく指導している印象を受けます。私は子どもたちがもっと英語を習得できる可能性があると思っています。例えば、単語を覚えることをもっと早い段階から始めていけば、難しい漢字を書けるようになるのと同じように、英語も自然に身につけられると思います。

アルファベットはたった26文字しかないので、子どもたちは十分に覚えられると思います。子どもたちって本当に無限の可能性を持っているので、教えるのは大変かもしれませんが、何より英語を好きになってくれることが一番だと思います。そんな素敵な教育ができれば素晴らしいです。

(教育長)

小学校3・4年生では外国語活動を行い、5・6年生では教科として外国語を学びます。そして中学生になると、英語の授業が本格的に始まります。小学校の段階では、楽しいアクティビティを通じて外国語に親しむことを重視し、子どもたちが楽しみながら学べる雰囲気を作っています。

同時に、徐々に「書くこと」も取り入れ始めています。書くことは子どもたちにとってハードルが高いかもしれませんが、興味や関心を持たせる工夫をすることで、書くことを嫌いにならないようにして、中学校での学習へスムーズにつなげています。

また、国の考え方をベースに教材を作成しており、子どもたちの意欲をうまく引き出すことで、その可能性を広げていけると考えますので、A層85%を目標に興味を持たせる工夫を続けていきたいと考えてい

ます。

（社会教育課長）

学校では、学校ボランティアの方が活動されていると思います。他にも、社会福祉協議会にボランティア登録をすると、様々なボランティアの機会を紹介してもらえます。また、市民活動センターでは、何か新しいことを始めたいけれど具体的なアイデアがない方に対して、様々な団体を紹介してくれます。

文部科学省が推奨する「放課後こども教室」は、小学校の放課後に子どもたちに様々な体験活動を提供することを目的としています。この取り組みは、学童保育に通うかどうかにかかわらず、すべての子どもたちが参加することができます。

放課後こども教室をすべての学校で実施できることが理想ですが、まずは初めての試みとして城山小学校と協力し、毎週水曜日に教室を開くことにしました。音楽、太鼓、キッズダンス、お菓子作りなどの活動を、専門の講師の先生方と協力しながら進めていく予定です。

（教育長）

放課後の子どもたちの居場所づくりが、本当の目的だと思います。学童保育に通っている子どもたちは居場所が確保されていますが、学童に行っていない子どもたちにも放課後に意義ある時間を提供することが求められています。そのため、できれば学校単位でこのようなプログラムを定期的に実施することを目指しています。

私たちはすべての学校でこのような取り組みを行うことを計画しており、実際に昔と比べて現在はこうした活動へのニーズが高まっていると感じています。ただし、プログラムを担当する講師の募集などの面ではまだまだ課題が多く、これらを解決しながら進めていく必要があります。

（委員）

「16年一貫教育プラン」の進化について考えています。このプランの中で、子育てのポイントとして、保育園・幼稚園・小学校では肯定意見80%の達成率を目指し、中学校では肯定意見60%となっていますが、中学校も80%を目指すのが妥当ではないかと思います。特に中学校では生徒の理解度に課題を感じる人が多いです。この20%の差について、何か理由や問題点があるのであれば教えていただ

きたいです。

もう一つは、教職員の交通事故についてです。最近は支援体制が充実してきていると感じますが、具体的な状況は把握していません。私が現役教員だった頃は、教職員の事故対応に多く悩まされていましたが、現在の状況についても教えていただきたいです。

この2点について教えてください。

(教育長)

今回、目指す目標値を改めることにしました。これまでは「子育て20のポイント」を意識しているA層を高い目標として設定していましたが、中学校では「子どもが輝く10のメッセージ」が思春期の子どもたちに対する対応の指針となっています。しかし、子どもが成長するにつれて、これらの指針を意識する保護者の割合が減少しているのが現状です。

アンケートの自由記述の中には、「四六時中意識するのは難しい」「プレッシャーになり、子どもに厳しくなってしまう」「忙しすぎて意識する余裕がない」といった意見もありました。これらの意見を踏まえ、私たちは、いつも意識することが難しいのは当然であり、困ったときに「20のポイント」や「10のメッセージ」を参考にしていただければと考えています。

そのため、常に意識している人を増やすという狭い考え方ではなく、困ったときにこれらを意識する、または子育ての手がかりとして認識している方も含めて、肯定意見80%を目指したいと考えています。現在、幼稚園や小学校では70%台ですが、これを80%に引き上げたいと思います。中学校では、保護者が少し距離を置く傾向があるため、50%を60%に引き上げることを目標としています。

このように、保護者の方々に子育てに元気を持ってもらい、楽しんでいただくための指針として、目標を改めました。100%を目指すのが理想ですが、あまりにも高い目標がプレッシャーになることを避け、現実的で保護者の皆さんが勇気づけられるような形で広めていきたいと考えています。

(学校教育課長)

令和6年度における教職員の事故件数は11件と報告されています。これらは主に接触事故であり、幸いにも怪我がないケースが多い状況です。件数は若干減少していますが、例年10数件程度の報告があり

ます。今後も、教職員への指導を強化し、事故件数をゼロに近づける努力を続けていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

(教育長)

年度末に私から厳重注意を行っております。過去3年間の傾向を見ると、事故件数はやや減少傾向にあります。以前は20件弱程度でしたが、これには加害と被害の両方が含まれています。昨年度の内容を見ると、事故の原因は主に不注意であり、大きな重大事故には至っていません。しかし、通勤や休日、帰宅後も教職員としての自覚を持って運転してほしいと考えています。そのため、事故をゼロにすることを目標に取り組んでいます。

学期ごとにコンプライアンス研修を定期的実施しており、わいせつ事案や体罰をはじめとする規律の徹底に加え、この研修には交通事故の防止も含まれています。これにより、教職員の意識をさらに高める必要があると考えていますので、今後も取り組みを進めていきたいと思ひます。ありがとうございます。

他に、全体を通してご質問はございますか。

無いようですので、次に進めさせていただきます。

5 その他

・後援について

(教育長)

後援第16号 第62回道徳教育研究会—三重会場—、

後援第17号 令和7年度子どもと教育を考える集い・第65回東員町教育研究大会、

後援第18号 テニスラウンジ菰野「GW無料テニス体験会」、

後援第19号 テニスラウンジ桑名「GW無料テニス体験会」、

後援第20号 講座&ワークショップ「感じてみよう！多言語で育てることばの力」、

後援第21号 わくわくカーニバル in 桑名、

後援第22号 第16回ほのぼのコンサート

について、事務局の説明を求めます。

(社会教育課長)

後援第16号から後援第22号について、ご説明いたします。

<後援第16号、17号、18号、19号、20号、21号、22号資料により説明>

(教育長)

後援第16号から後援第22号について、何かご質問はありますか。
無ければ後援させていただきます。

・入園式・入学式について

(教育長)

入園式・入学式に参加いただいた感想など頂いてよろしいでしょうか。

(委員)

参加させていただいた入園式は、お子さんと保護者がペアになって座る形式で、一人大変そうにしている子がいましたが、それでも先生たちは非常に上手に式を進めており、感心しました。

泣いてしまった子は、お母さんが助けに来て泣き止まず、式の最中なので席を立たれたのですが、隣に座っている保護者の方が一言「大丈夫ですか？」と声をかけるなど、少しの思いやりがあればいいのと思いました。

小学校の入学式にも参加しましたが、良かったと思います。告示を読む際に、保護者が左右に並んでいるため、話をする際にどこに向かって話すべきなのか、少し工夫が必要だと感じました。全体として、式はとても良かったと思います。

(委員)

入園式では、2歳児クラスから上がってきた子もいれば、3歳で初めて園に来た子もあり、少し落ち着かない様子でしたが、園長先生が「3年後どのように成長していくのか楽しみです。一緒に頑張ります」とおっしゃって、私もその成長を楽しみに思いました。

一方、小学校では、新入生が大きな声で返事をし、落ち着いて入学してくれたことに感激しました。子どもたちの成長が楽しみな式でした。

(委員)

中学校では校長先生が挨拶で、毎年「私も勉強していきますよ」「一緒に成長していきましょう」というお話をされるのですが、この言葉に大変感銘を受けております。

以前、三重県で行われた教育談義で、日本代表ラグビーのメンタルコーチの方が「今の時代はもうリーダーシップの時代は終わりました。フォロワーシップの時代に入った」とおっしゃっていて、その言葉が非常に印象に残っています。現代は多様性が重視され、ワクワクドキドキと楽しくないと前に進めない時代になっていると思います。そのようなサステナブルな取り組みが必要な中で、校長先生のような挨拶をしていただき、子どもたちを導いていただけることに、私は深く感銘を受けています。

また、私の出勤時間と子どもたちの通学時間が重なるのですが、自転車ですれ違う際に「行ってきます」や「おはようございます」と声を掛けてくれます。子どもたちは不安というよりもワクワクドキドキしながら、中学校1年生の4月から通学できることは本当に幸せなことだなと感じました。

(委員)

告示の内容ですが、保護者向けの言葉が多く占めているように感じました。入学式の主役は子どもたちなのに、子どもたちに語りかける言葉が少ないように思いましたので、子どもたちへのメッセージを増やすことで、心に残る入学式になるのではないかと思います。

(教育長)

ありがとうございます。告示についてはご意見を参考にさせていただきたいと思います。

・次回定例教育委員会日程について

(教育長)

次回定例教育委員会日程について、事務局お願いします。

(教育総務課長)

次回ですが、令和7年5月20日(火)午前9時30分から東員町教育委員会を開催することとしてよろしいか。

(全委員)

異議なし。

(事務局長)

これをもちまして、令和7年第4回東員町教育委員会を閉会いたします。